

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/06

米金融政策の今後をうかがう展開に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米要人発言で金融政策の方向感確認 予想レンジ: 79.00 ~ 82.40 円	2-4
カナダ/円	➡	米景気減速懸念がカナダドルを圧迫 予想レンジ: 80.00 ~ 83.50 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 5/30~6/3の主な推移

※4時間足



5/30 Monday	英米が祝日(英:スプリング・バンクホリデー、米:メモリアルデー)で市場参加者が少ない中、80円台後半でもみ合いとなった。
5/31 Tuesday	早朝に米紙ウォールストリートジャーナル(WSJ)が「ドイツがギリシャに対して早期債務再編を強要することを止める検討をしている」と報じたことを受け、対ユーロでドル安が進むと、ドル/円は80.71円までドル安が進んだが、格付け会社ムーディーズが「日本の格付け(Aa2)を引き下げ方向で見直す」と発表すると、一転して円安が進行。ドル/円は81.30円台では上値を一旦抑えられたものの、東京株式市場の引け前にムーディーズが日本の経済・財政の先行きについて懸念を示し、「見直しは大半のケースで格下げにつながる」との見解を示すと、81.76円まで円安・ドル高が進んだ(①)。しかし、22時45分に発表された米5月シカゴ購買部協会景気指数が56.6(市場予想:62.0)、23時に発表された米5月消費者信頼感指数が60.8(同:66.6)と、市場予想よりも米経済が弱いことを示す指標結果が続くと、ドル/円は一時81.17円まで上げ幅を縮小した。
6/1 Wednesday	東京市場から欧州市場中盤にかけては81円台前半でもみ合い。しかし、21時15分発表の米5月ADP全国雇用者数が3.8万人増(予想:17.5万人増)、23時発表の5月ISM製造業景況指数が53.5(予想:57.1)と予想を大幅に下回る結果になると、ドル/円は80.65円まで下落した(②)。
6/2 Thursday	仲値公示に向けたドル買い需要や、日本の政局混迷を嫌気した円売り等により、ドル/円は午前中に81.32円まで上昇した(③)。しかし、昼ごろに菅総理が「大震災の復興に一定の目途がついた段階で若い世代にその責任を引き継いでもらいたい」と発言し、条件付きながらも退陣を表明したことで内閣不信任案が否決の見通しが高まると、欧州市場にかけて円買い優勢の展開となった。21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が42.2万件と予想(41.7万件)よりも悪い結果となったことを受け、ドル/円は発表直後に80.55円の安値を付けたが、その後に米国債利回りが大きく上昇すると反発。ただし、81.00円前後では上値を抑えられた。
6/3 Friday	東京市場序盤から、この日に発表される米5月雇用統計について、市場予想値よりも悪い結果になる、との思惑が広がり、ドル/円はジリ安。21時30分に発表された米5月雇用統計が失業率が9.1%と改善予想(8.9%)に反して悪化し、非農業部門雇用者数は5.4万人増と予想(16.5万人増)を大幅に下回ると、発表直後のドル/円は急落し、80.05円の安値を付けた。しかし、節目の80.00円付近では底堅く、80.20円前後まですぐに反発。さらに、23時に発表された米5月ISM非製造業景況指数が54.6と予想(54.0)を上回ったことで80円台後半まで切り返す場面も見られた(④)が、その後は対ユーロでのドル売りが強まったことで、再び80.20円台まで値を下げた。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

ここ最近、米経済指標の結果が予想よりも弱いものが続いた上、先週末発表された米5月雇用統計もかなり弱い結果となったことで、足元では市場で量的緩和第3弾(QE3)の可能性が指摘される程米国経済の先行きについて不安が広がっている。こうしたムードの中では、米経済の弱さを示す材料に相場はより敏感に反応しやすくなると見られる。

今週の米国では手掛かり材料になりそうな経済指標などは少なく、9日発表の週次の新規失業保険申請件数や4月貿易収支程度であるが、米国の各地区の経済の強さを報告する8日発表の地区連銀経済報告(ページブック)における景気判断や、要人発言にも注目しておきたい。要人発言の機会については、今週は6日にプロッサー・フィラデルフィア連銀総裁、7日にフィッシャー・ダラス連銀総裁とロックハートアトランタ連銀総裁、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長、8日にダドリー・NY連銀総裁およびホーニグ・カンザスシティ連銀総裁、9日にプロッサー総裁及びイエレンFRB副議長と、毎日のように米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーの講演が予定されており、比較的多いと言える。22日に声明が出るFOMCに向けて、彼らがどのように米経済を見ているかという点は材料視されよう。この他、米国債入札(7日:3年債、8日:10年債、9日、30年債)を受けた米国債利回りの動きも、ドル/円相場で手掛かりになってこよう。

なお、基本的にドル売り優勢になりやすいとみるが、ドル/円相場の場合は節目の80円を割り込むと、日本政府および日銀による円売り介入観測が広がり、それが一定の下支え容認になる可能性がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:79.00~82.40円)

USD/JPY

テクニカル分析

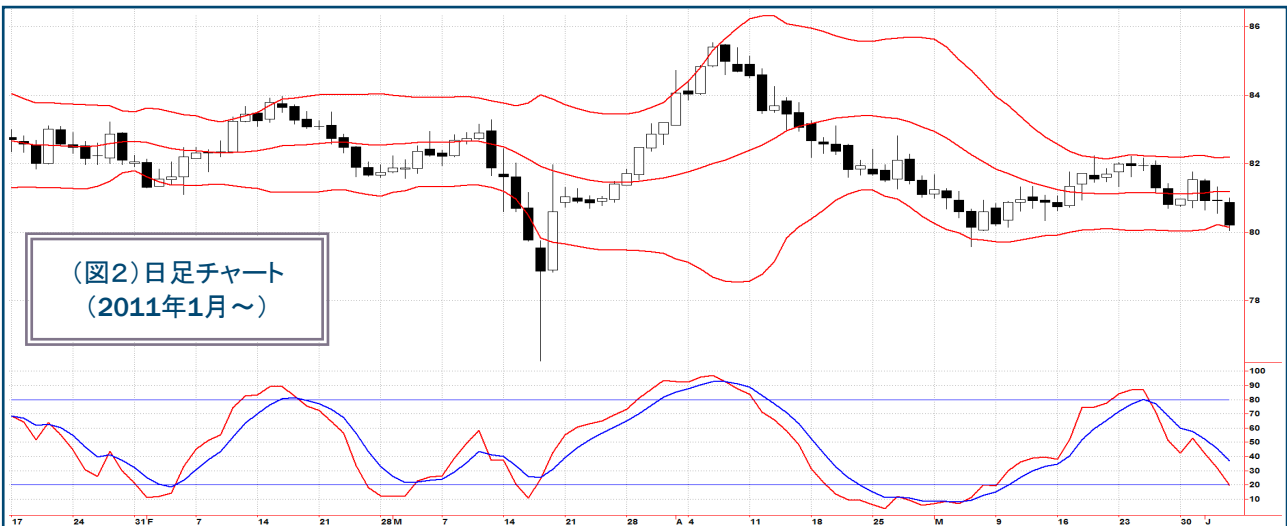
●ドル/円 6/03週足引値:80.21円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値81.76円～安値80.05円と1円71銭の値幅の一週間となった。

先週は80円台後半で取引が始まり、81.76円の高値を5/31に見たが、その水準では上値が重く定着せず、そこからドル買いポジションの荷もたれ感から下落し、80円近辺の安値を見た。週末引値80.21円は、20日線(81.18円、6/03)40日線(81.62円、6/03)、60日線(81.83円、6/03)、200日線(82.55円、6/03)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(6/03時点)は上限:82.20円～下限:80.14円であり、バンドの上限は横這い、下限は下向きに転じ、バンド幅はやや拡大している。

週足チャート(図1):先々週、先週と引き続き陰線が出ている。先週の上ヒゲの出た陰線は下落に向かいやすい足取りと言える。

日足チャート(図2):先々週後半から下落相場の動きになりつつある。ドル/円を買ってそのままになっているポジションがまだ市場に残存している。5日線(80.91円、6/03時点)は引き続き下向きであり、何かのきっかけでは下落方向への動きが勢いづくことが考えられる。5/05安値79.57円への面合わせを警戒。79.50円以下では下げの加速に注意。78.50～81.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5/30~6/3の主な推移



<p>5/31 Tuesday</p>	<p>格付け会社ムーディーズが日本の格付けを従来の「Aa2」から引き下げ方向で見直すと発表した事を受けて円売りが強まるとカナダ/円も上昇した。その後、カナダ中銀(BOC)が定例会合後の声明で「景気刺激策はいずれ引き揚げへ」とし、明確な時期こそ示さなかったものの、近い将来の利上げを示唆した事を手掛かりにカナダドル買いが強まると、カナダ/円は84.50円の高値を付けた。(①)</p>
<p>6/1 Wednesday</p>	<p>米5月ADP全国雇用者数は前月比3.8万人の増加にとどまり、予想(17.5万人増)を大きく下回った。また、米5月ISM製造業景況指数も予想(57.1)を下回る53.5となった。これらの経済指標の結果を受けてドル/円が下落した事や、米国株が急落した事によるリスク回避の動きからカナダ/円は82.80円まで大幅に下落した。(②)</p>
<p>6/3 Friday</p>	<p>米5月雇用統計は、事前予想では失業率が8.9%、非農業部門雇用者数が16.5万人増のところ、失業率が9.1%(前回9.0%)、非農業部門雇用者数は5.4万人増(前回23.2万人増)となった。弱い雇用統計を嫌気したドル売り・円買いと米国株下落の影響からカナダ/円は大きく値を下げ、一時81.34円の安値を付けた。(③)しかしその後米5月ISM非製造業景況指数が54.6と前回(52.8)や予想(54.0)を上回った事を受けてドル/円が急反発。また、NYダウ平均株価も安値から切り返す動きとなった事もあって、カナダ/円は82.30円台まで値を戻した。</p>

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

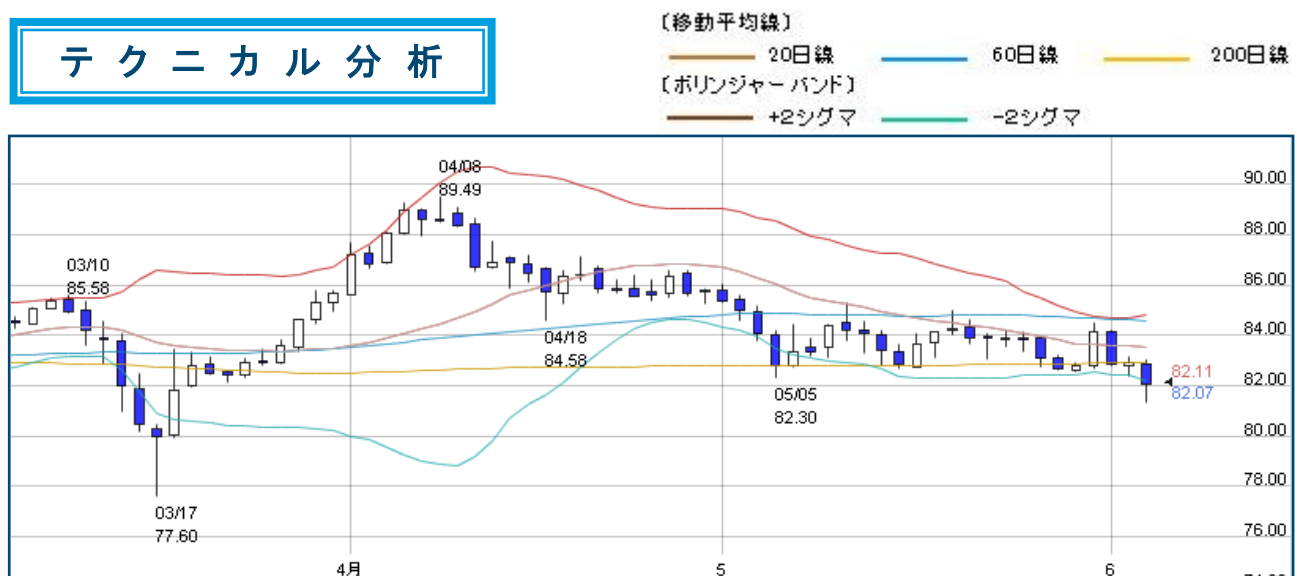
CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は81.34円～84.50円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.6%の下落(カナダドル・円高)となった。カナダ/円は、カナダ中銀(BOC)による近い将来の利上げを示唆する声明を受けて上昇したものの、米国景気の減速懸念から約2ヵ月半ぶりの安値となる81円台まで下落するなど、改めてカナダドルと米国経済の連動性を印象付ける格好となった。今週は、米国で発表される経済指標が少なく、米国景気の減速懸念を払拭する事は難しいだろう。したがって、カナダ/円も上値が重い展開が見込まれ、NYダウ平均をはじめ米国株がもう一段の下落となるようだとカナダ/円の下押し圧力となりそうだ。一方、カナダでは10日に発表される5月雇用統計が注目されるが、事前予想では雇用者数のネット変化が2.50万人の増加と、4月の5.83万人増に比べ伸びが鈍る見通しとなっており、大幅に予想を上回らない限り、強力なカナダドル買い材料とはなりにくいだろう。(神田)

(予想レンジ: 80.00～83.50円)

テクニカル分析



●カナダ/円 6/03週足引値: 82.07円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/6/03安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は200日線(82.93円、6/03)が上値を抑え、20日線(83.52円、6/03)や60日線(84.57円、6/03)を下回っている。ボリンジャーバンドは6/03現在、上限84.83～下限82.21円であり、取引値がバンド下限を押し下げている。バンド上限は上昇し、現在のカナダ/円の下落がトレンドと思わせるものがある。4/08に直近高値の89.49円を見てから緩やかに下落の流れが進行している。先週は60日線がしっかり上値抵抗線となった。下値はボリンジャーバンドの下限を割り込みつつある。このパターンは上値が重い中、ややもすると下値方向への力がかかりやすいと見られる。今後、本格的な82円割れを警戒するところだが、ゆっくりなのか、速いのが気になる。上値ポイントは①83.52円(20日線、6/03段階)、②84.50円(5/31高値)、③84.57円(60日線、6/03段階)であり、下値ポイントは①82.00円(キリのいいところ)、②81.47円(1/31安値)、③80.00円である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/6~9)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/6	—		香港休場(端午節)、ウェリントン休場(女王誕生日)		
(月)	18:00		(ユーロ圏) 4月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+6.7%
	21:30		(加) 4月住宅建設許可 [前月比]	+17.2%	—
	23:00	○	(加) 5月Ivey購買部協会指数	57.7	—
6/7	13:30	◎	(豪) RBAキャッシュターゲット	4.75%	—
(火)	14:00		(日) 4月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	100.1	96.5
			(日) 4月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	103.5	103.7
	18:00	○	(ユーロ圏) 4月小売売上高 [前月比]	-0.9%	+0.3%
		○	(ユーロ圏) 4月小売売上高 [前年比]	-1.7%	+0.1%
	19:00		(独) 4月製造業受注 [前月比]	-4.0%	-2.1%
	26:00		(米) 3年債入札 (320億ドル)	—	—
	28:00		(米) 4月消費者信用残高	+60.16億USD	+50.00億USD
6/8	08:50		(日) 4月貿易収支	2403億円	-3732億円
(水)	14:00		(日) 5月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	28.3	—
			(日) 5月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	38.4	—
	15:00		(独) 4月貿易収支	+189億EUR	+143億EUR
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.8%	+0.8%
			(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+2.5%	+2.5%
	19:00	○	(独) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.7%	+0.2%
	21:15		(加) 5月住宅着工件数	17.9万件	18.35万件
	26:00	○	(米) 10年債入札 (210億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
6/9	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレートの	2.50%	—
(木)	08:50		(日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比]	-0.9%	-0.8%
			(日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比年率]	-3.7%	-3.0%
	10:30	◎	(豪) 5月新規雇用者数	-2.21万人	—
	10:30	◎	(豪) 5月失業率	4.9%	—
	17:30		(英) 4月商品貿易収支	-76.60億GBP	-75.50億GBP
	20:00	◎	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.25%	—
	21:30	◎	(米) 6/4までの週の新規失業保険申請件数	42.2万件	—
	21:30	○	(米) 4月貿易収支	-482億USD	-486億USD
	21:30		(加) 4月国際商品貿易	+6億CAD	+3億CAD
	21:30		(加) 4月新築住宅価格指数 [前月比]	±0.0%	—
	23:00		(米) 4月卸売在庫 [前月比]	+1.1%	+1.0%
	26:00	○	(米) 30年債入札 (130億ドル)	—	—

経済指標カレンダー (6/10)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/10 (金)	15:00		(独) 5月消費者物価指数・確報 [前月比]	±0.0%	±0.0%
			(独) 5月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	17:30	○	(英) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.2%	±0.0%
	17:30		(英) 4月製造業生産高 [前月比]	+0.2%	+0.1%
	17:30		(英) 5月生産者物価指数 [コア:前年比]	+3.4%	+3.5%
	20:00	○	(加) 5月雇用ネット変化	58.3万人	25.0万人
	20:00	○	(加) 5月失業率	7.6%	7.6%
	21:30		(加) 第1四半期労働生産率 [前期比]	+0.5%	—
	21:30		(米) 5月輸入物価指数 [前月比]	+2.2%	-0.7%
	27:00		(米) 5月月次財政収支	-827億USD	-1600億USD

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com